

第3回 樋橋地区まちづくり推進委員会 議事録【要約】

開催日時 平成28年10月25日(火)
午後3時00分～午後5時00分
開催場所 佐久消防署3階講堂

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 会議事項

(1) グループワーク

(進行役)

本日は事前課題としたものを素材にし、ワークショップを行う。

ワークショップとする理由は、委員会が大人数のため、一人一人の考えを聞く機会が少ないため、5、6人のグループに分かれて直接議論し模造紙にまとめ、グループで発表する形式とした。

また、ワークショップの目的は、まちづくり推進委員会の検討目的である「地区計画の素案に反映させるまちづくり提言書」の内容を決めていくための「案出し」として実施する。

なお、施設やサービスに目が行きがちになると箱もの中心の考えになることから、「活動」を中心に考え、それを逆算して必要な施設や景観を考えることにより、箱モノに偏らない、地に足がついた計画ができるのではないかと考える。そうした形で議論を進めていきたい。

参画委員は様々な立場で参画されていることから、地権者は、「樋橋のまちづくり自体が、佐久市全体の公共性に適う佐久市全体の問題であるからみんなで考える」ということを認識してもらおうと共に、地区外の方は、地権者が土地区画整理事業を大きなリスクのなかで進めるものであることから、外からの意見ではなく、一緒になって真剣に考えていくスタンスでお互いに歩み寄って考えていただきたい。

— 第1～第5グループテーブルへ移動。 —

— コンサルスタッフの進行によりグループワークを実施。 —

(2) グループ発表とまとめ

【第1グループ】

(発表委員)

活動を中心に、施設、景観について意見を説明する。

まず、移住者を対象とした活動をあげた。

これに伴い、必用な施設サービスとして、移住者のための分譲マンションや戸建て住宅、移住者の就労等の相談窓口が必要だろうという意見がある。

また、居住者が日常生活で利用できる施設として、文化施設やカフェがあったらいいという意見がある。

買い物等の枠では「地域内を散策する広い歩道、屋外店舗での食事」という活動に対し、施設として生活用品の専門店、市内農産物の直売所が欲しいという意見があった。

イベントでは、歩道を利用して「朝市、フリーマーケットやライブ」などの活動の案が出た。これを行う施設として土や水にふれられる大きな公園という意見が出た。

また、フोटスポットがあれば、SNS による拡散がされるという意見があったほか、必要な施設として、公共施設、周辺商店街を結ぶ交通ネットワークという意見がある。

なお総じて「歩きやすい歩道」、「車より歩行者優先の道路」といった意見が出た。

景観としては、浅間山や八ヶ岳が見える空間、類型定期的な様式で統一されない面白い街並み、再生や変遷に対応できる緩い街区、電柱のない街並みといった意見があった。

(進行役)

グループ1は他グループがテーマ性でまとめたのと比較し、体系的にまとめた。

つまり、来街者や居住者視点にし、そのための活動と施設を主体別、機能別にモーラの的にまとめてあり、こういう形で整備すると全体が見えてくる発表であったと思う。

【第2グループ】

(発表委員)

活動の1つとして「健康増進に関わる活動」をあげた。例えば、ウォーキングイベントや健康相談など、また食事を楽しむことも健康増進のひとつとしてある。

2つ目として、「佐久の文化に触れる活動」として、佐久の特産品をPRするマルシェ、名所めぐりのバス運行により、良き文化に触れる活動をあげた。

3つ目が「命の大切さを感じ取れる活動」。動物とふれあう会などがある。

4つ目として「若者が集まれるような活動」として、キャラクター展などが提案された。

いずれにしろ、これらを行える施設が必要で、今あるような中途半端な規模ではなく、大きいものが必要だという意見である。

このほか、若者だけでなく多様な世代が集まれる活動、地域の人だけでなく外から人を呼び込めるようなPR活動が必要という意見がある。

課題としては、貯水池の確保、裏道が利用されることへの安全対策も必要と意見がでた。

最後に具体的なイメージを膨らませるため、視察の実施をお願いしたい。

(進行役)

第2グループはテーマとして「健康」を出し、これにそった活動が充実している。

大事なのは健康というキーワードは、高齢者向けをイメージしやすいが、若者を含めた健康という指摘が「多世代のための街」という考え方につながり、良いと感じた。

また、佐久の良さをどう生かすかという意見も重要。これを健康とどうつなげていくかという点がでると良いと感じる。

施設との関連性について文化会館という話もでたが、これもなぜ文化会館なのか、健康やアクティビティーとどう結び付けられるとなぜこれが必要なのかがわかってくると思う。

最後に指摘のあった部分だが、今回のワーキングはやりたいこと、前向きなものを出していくことが多いが、課題部分の指摘は非常に大切。

【第3グループ】

(発表委員)

活動から施設・景観を考えていった。

フィットネスジム等で健康や長寿を考えようという意見、バーベキューやビアガーデンという意見があった。

施設的には図書館、本屋、展望デッキのある休憩施設がほしいという話があった。

いずれにしても、学生や若者を呼び込める街、それが活力ある街づくりにつながるという意見である。

都市部の複数の大学と締結したり、また学生の知識と地元民の知識を交換するような連携、学生たちを呼び込むための仕事場やコーディネーターも必要という意見が出た。

また、高齢者については、福祉機器のメーカーを呼び込み、イベント等の活動をおこなってもらう、そのための施設も必要。

交通も課題になるという点で、ロボット制御のバスが発達すれば、それによるターミナル機能も可能という希望的な意見もあった。

農作業や体験型を希望する人に対し、浅科や望月の素晴らしい地区を活用した方が良いので、総合的な案内所、大きな案内所が必要という意見も出た。

最後に、佐久は日本一災害が少ない地域であることから、その点をPRして企業誘致を進めてほしいという意見もあった。

(進行役)

第3グループの特徴として、「大学・若者」という点を中心に考えられているのが特徴的。これは佐久大学が近くにあり、その立地を生かすということだと考える。

文字にはなっていないが、先ほどの話にあった望月、浅科などの近隣地域の魅力的な地域の資源を生かすということも同様である。

災害の少なさを企業誘致につなげていくことも含め、佐久の良さを生かすという視点でつながっている。

【第4グループ】

(発表委員)

基本的には、「佐久に人を集めてお金を落としてもらう」という試みが必要。

また、軽井沢と近い関係にある事実もあり、それを生かしたサービスがあったら良いという意見、また人を呼び込める企画が重要という意見であった。

また、人を呼び込んだ後には施設が必要となり、バスターミナルなど人を運ぶ足が必要という意見が出た。

樋橋が新幹線駅、インターに近いという特性を活かした企画が良いという話がでたほか、誰にもやさしい企画、高齢者や障害福祉、また地域の食材や飲食店街等につながる細かなものも良い。

そして、地域の宝は景観。浅間山、八ヶ岳、特に中山道の要衝にあたり浅科、望月にもつながる。それを大事にした歩く景観、四季折々の草花を景観に含めたらという意見がでた。

(進行役)

グループ4は、「人の流れを作る、金を落とす」というストーリーが作られている。

樋橋地区を交通のハブにする、ネットワークの中心にする、そのためのホテル、ターミナルがあり、金を落とすための地元特産品のショップなど、地域を売りにした施設があるという流れが明確になっているのが特徴。

【第5グループ】

(発表委員)

キーワードは「佐久を知る、佐久を知ってもらう」。

佐久には総合案内所がない。ぜひ樋橋の機能に入れたいという意見がでた。

総合案内所を入れることにより、県外からの観光客や移住者が佐久の酒蔵などの魅力を知ってもらえる。生産物や小さなイベントまで非常に効果的で様々な情報発信をすることができる。

また、観光よりも工業の方が税収につながるので積極的に紹介したいという意見もあった。

次に、施設・サービスの話だが、佐久平や周辺には飲食店や飲み屋街があるので、「樋橋についてはネオン街はいらない」そういう街づくりにしたらどうかという意見もでた。

専門店や、体験学習ができる施設、介護や健康の関係の施設が欲しい、その施設からバスを軽井沢や市内に動かしたらという意見があった。

次に景観の方だが、やはり「緑のある街並み」が必要で、歩道を広く取って自転車や歩行者が自由に行き違いできる歩道が良いという意見のほか、電柱がない、災害時に強いという意見が出た。

また、これだけの施設ができると駐車場が必要で、立体や地下駐車場が必要という意見や、新鮮な食材が揃う施設も欲しいという話がでた。

(進行役)

グループ5の発表のとおり、「佐久を知る、知ってもらう」というテーマが重要だ。

そして、言われるとおり、人の流れをつくるためにも情報が必要。

それによって、活動や産業が生まれる。大変重要な指摘であったと思う。

それでは、今まで出た発表に対し、意見をいただきたいと思う。

(委員)

樋橋は全く新しい地域。新しい街づくりには共通の価値観を持った方が良い。

その中で出てきたのが「佐久を知ってもらう」「おちついた街」として、酒蔵や食というものが出てきたのだと思う。

小布施の街づくりに携わっているが、樋橋から岩村田、中込に感染していくというのが大事。

小布施も初めから全員が方針を良しとしていたわけではなく、行政でやること、民間でやることをわきまえてだんだんに広がっていった。樋橋もそうしたことが必要だと思う。

(進行役)

おっしゃる通り、樋橋のまちづくりから、周辺に波及するというのが重要。

周辺地域との関係性をどう築くかが大切。

(委員)

やはり、施設だけではなく、そこで「人が活躍できる」というのが大切。

老いも若きも集まって、支援される側もする側も、双方で人が活躍できるというところ。そこがお金につながる、企画につながる事が大切だと思う。

また、ワンストップで情報が得られる、ことが済むということも考えられた。

(進行役)

確かに、人が活躍できるという場所になるということが、その場所の価値を上げることにもつながる。土地区画整理のポイントにもなると思う。

私の方でまとめるまでもなく、今日の皆さんの話の中から方向性がでてきていると感じた。

まず、「場所を知ってもらう、情報の流れをつくる、人の流れをつくる、金を落とすしていく」という

仕組みが軸になると思う。

そこで重要なのが佐久のアイデンティ、佐久らしさ、これをどう売っていくか、これがなければほかの都市と同じく埋没してしまうわけで、特に大規模チェーン店ばかりが入るようになるようであれば、それ以外で佐久らしさをださなければ、5年10年は良いのだろうが、それ以上は続かないだろうと皆さんの意見を聞いて感じた。

それではワークショップはこれで終了とし、会長に進行をお返しします。

(会長)

みなさんの積極的な意見を出していただきありがとうございました。

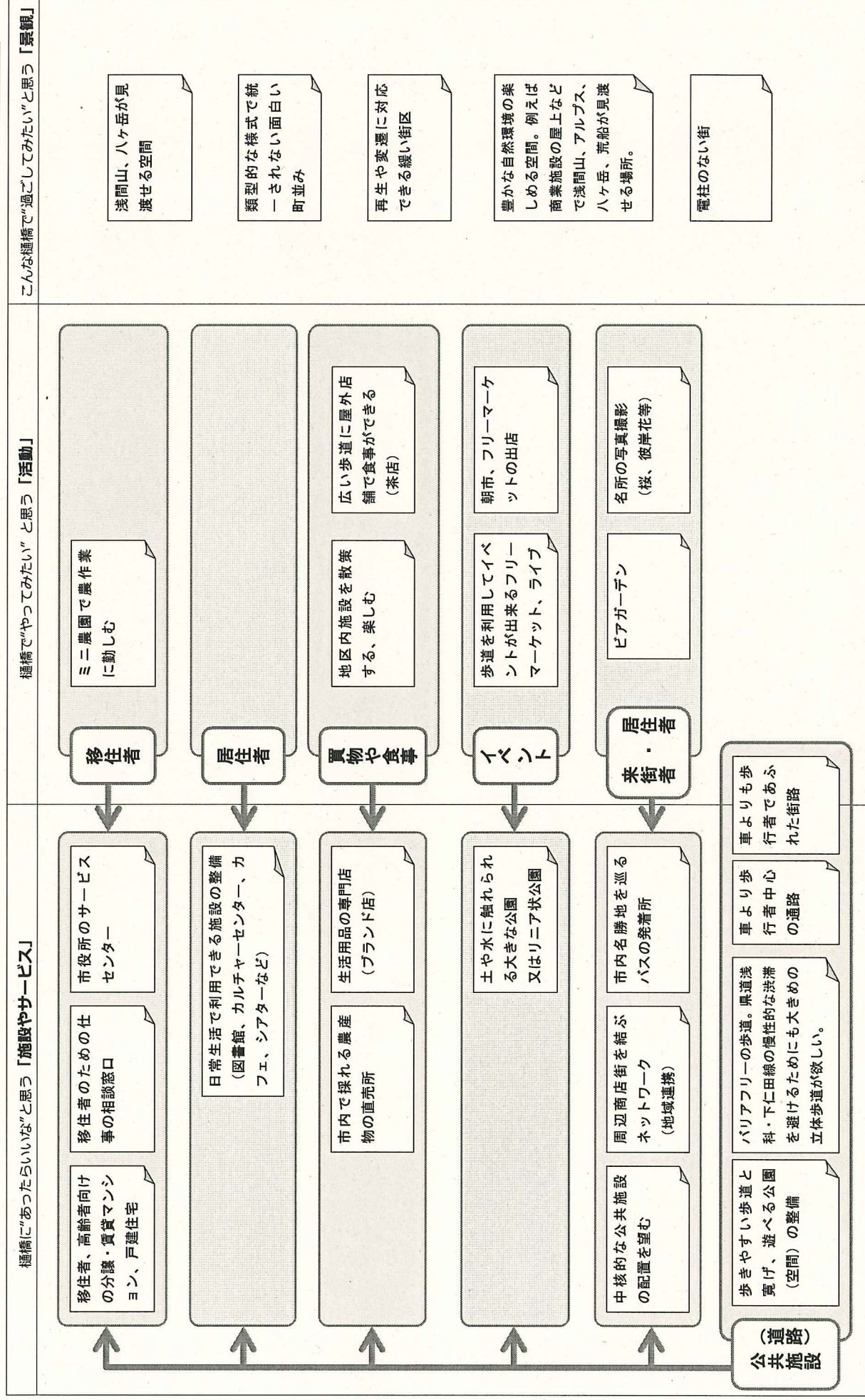
これを機にいろいろな情報を集めていただいたり、様々なことを考えていただき、良い街づくりの議論となるよう期待します。

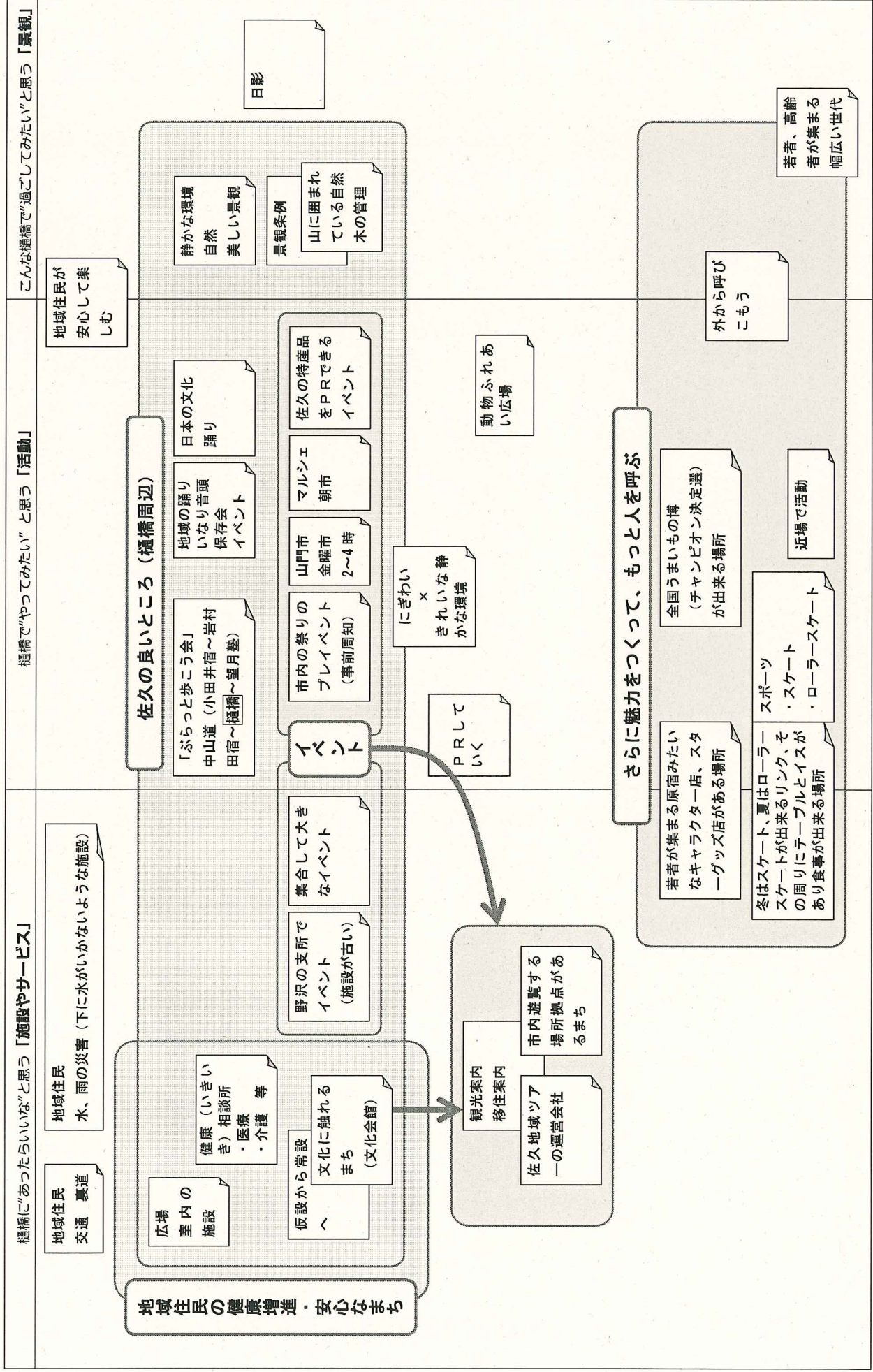
(3) 次回会議の日程

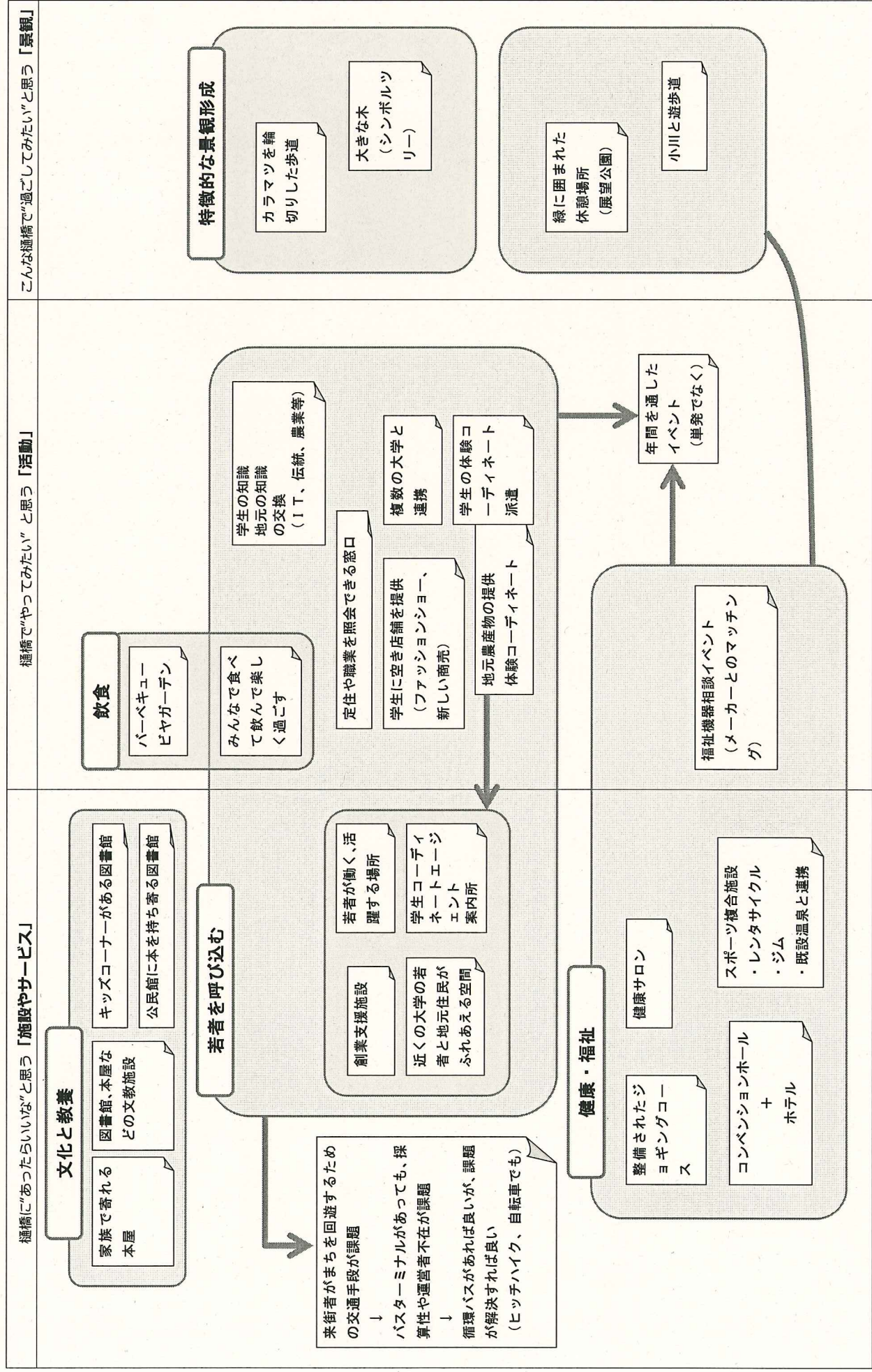
第4回の会議は11月24日の木曜日に予定させていただく。

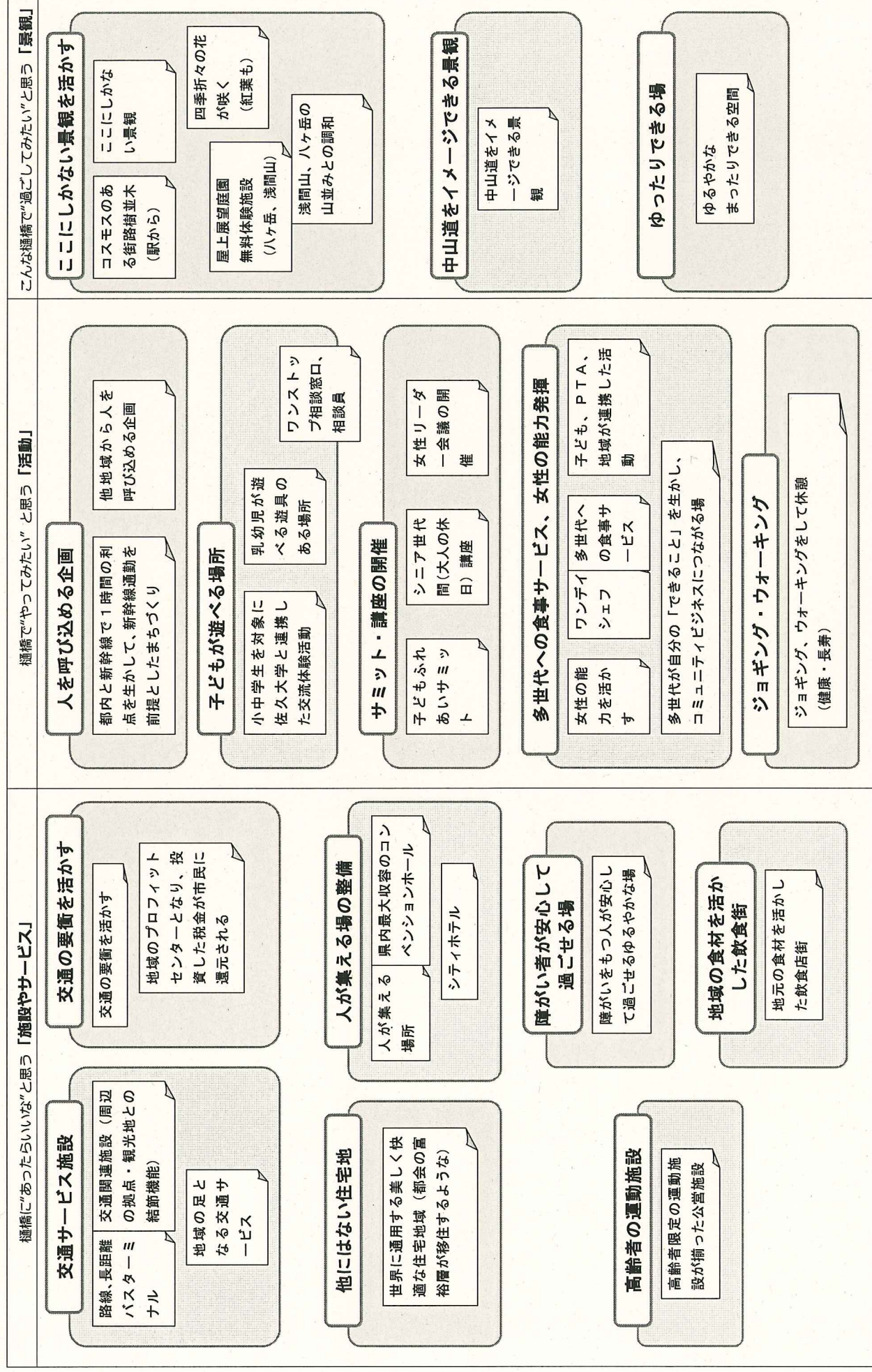
通知については場所等が決まり次第、改めて通知します。

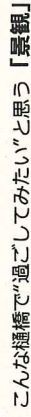
4 閉 会











災害時も機
するまち

